都道府県名	宮崎県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月の状況）

学校名	日南市立　飫肥中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	３	３	１	１０	２２
生徒数	９１	８７	８３	１	２６２	

Ⅱ　研究の概要

1　研究主題

研究主題　：　学力を高めようとする実践力をそなえた生徒の育成
副題　；　～　基礎的・基本的な学習内容の指導から　～

2　研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年および教科については，全学年，全教科を対象とした。それは，上記の研究主題・副題は実態を踏まえたものであるが，新たな取り組み(研究)は，数年間は継続させないと本当の成果は得られないという考えからである。従って，フロンティア事業を推進するにあたり，研究においては昨年度までの取組〔日南市指定　学力向上〕を継続しながら，発展させるという意味合いを持たせた。昨年度までの対象が，全学年，全教科にまたがっていたため，本年度からも特定の学年，教科に絞らず，それに準ずることとした。

(2) 年次ごとの計画

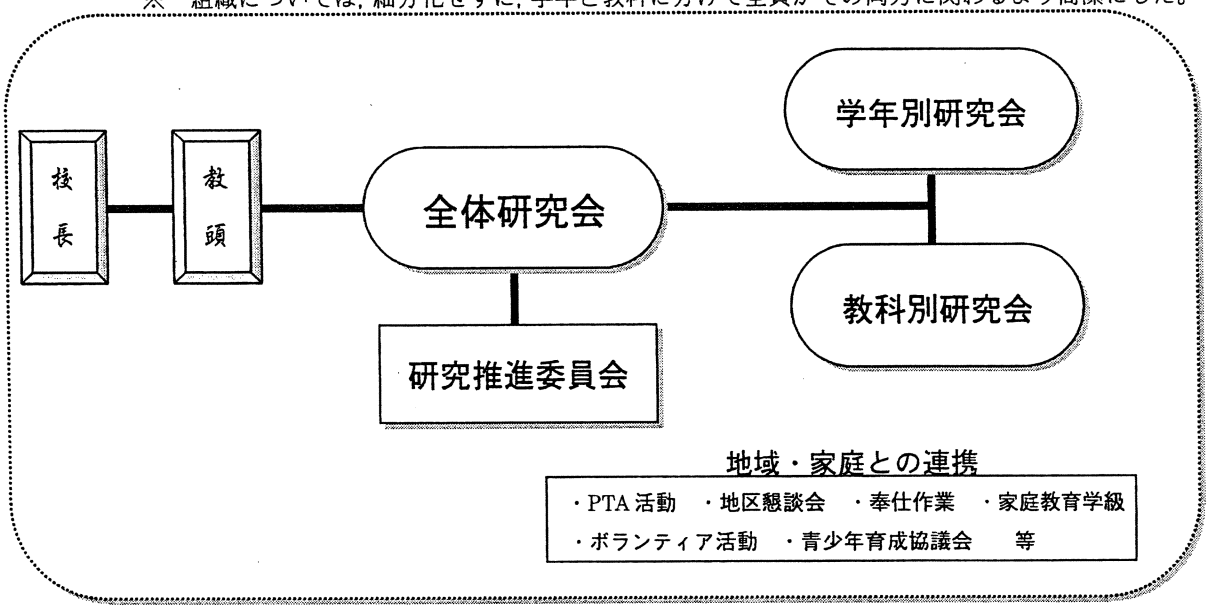
平成15年度	○　テーマ　「確かな学力」の向上のための実践研究 ○　研究の見通し（仮説） 本研究は，基礎的・基本的学習内容をもとに，今までの取組および新たな取組から生徒に学力を意識させ，それを高めようとする実践力を身につけさせることを目的としている。その実践力が身についていけば自信ややる気がさらに沸き起こり，結果的に「確かな学力」が得られ，将来の「生きる力」の礎になると予想される。 ○　研究の方法・内容 ア　初年度の研究基盤づくり 〔教師の意識調査・生徒の実態調査・研究体制づくり〕 イ　これまでの研究の生かし方〔“鍛える”という観点からの学年での取組等〕 ウ　各教科での取組 〔“わかる”という観点からの各教科におけるきめ細かな指導の計画〕 エ　新たな取組の模索〔“主体性”という観点から生徒主体の新たな活動〕 オ　家庭・地域との連携〔“育む”という観点からの連携のための体制づくり〕 カ　初年度の反省〔成果と課題〕

平成16年度	○　テーマ　「確かな学力」の向上のための実践研究 ○　研究の見通し（仮説） 　本研究は，基礎的・基本的学習内容をもとに，今までの取組および新たな取組から生徒に学力を意識させ，それを高めようとする実践力を身につけさせることを目的としている。その実践力が身についていけば自信ややる気がさらに沸き起こり，結果的に「確かな学力」が得られ，将来の「生きる力」の礎になると予想される。 ○　研究の方法・内容 　ア　初年度の見直し〔方向性の軌道修正，実践内容の再検討等〕 　イ　学年別研究会の取組〔“鍛える”という観点から，学年での取組の充実〕 　ウ　各教科のきめ細かな指導の計画に基づいた実践〔授業研究の計画的実践〕 　エ　学校裁量の時間を利用した取組 　〔“主体性”という観点から生徒主体の活動実践〕 　オ　家庭・地域との連携充実〔“育む”という観点からの連携充実〕 　カ　２ヵ年間の成果と課題

(3) 研究推進体制

① 研究組織

※　組織については，細分化せずに，学年と教科に分けて全員がその両方に関わるよう簡潔にした。



≪研究推進委員会≫

研究の企画・立案，連絡調整，全般のデータ収集・整理・提示を行う。

≪全体研究会≫

研究推進委員会および各研究会からの提案事項の検討・連絡や研究全般の協議等を行う。

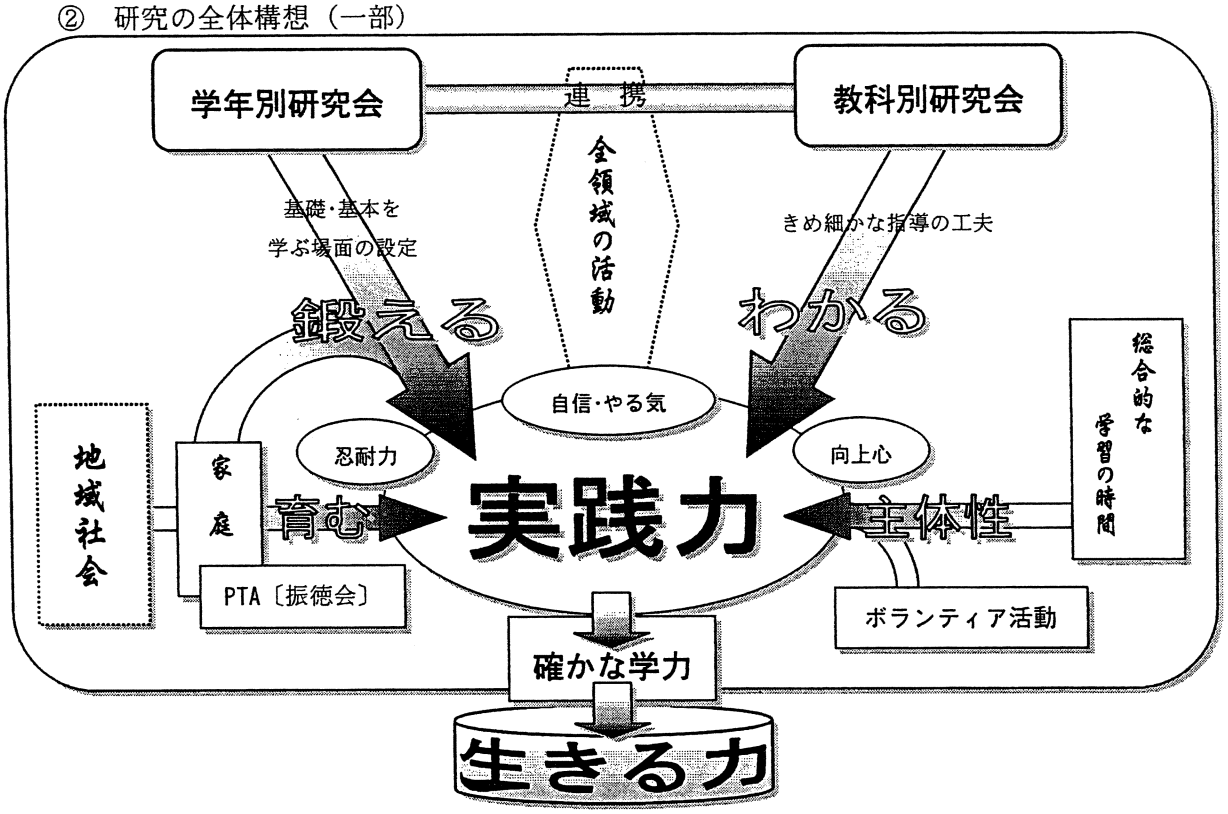
≪学年別研究会≫

基礎・基本的学習内容の定着を図るための研究を推進する。また，基本的な学習習慣の徹底や学習環境の整備等を行う。

≪教科別研究会≫

各教科できめ細かな指導の工夫を推進し，個に応じた「わかる授業」を目指す。また，評価方法についても，生徒の自ら学ぼうとする学習実践につながるよう研究を進める。

② 研究の全体構想（一部）

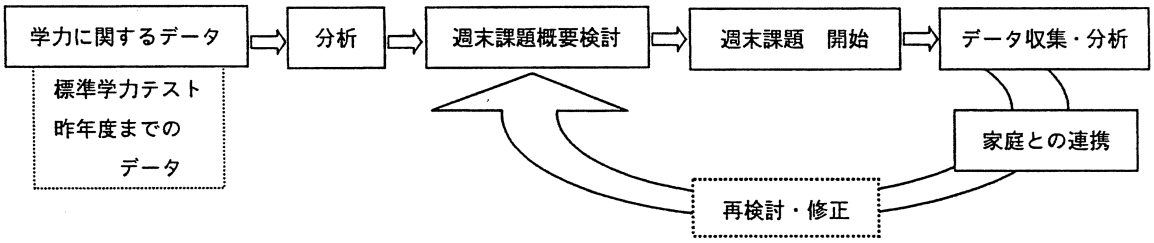


③ 本年度の具体的内容

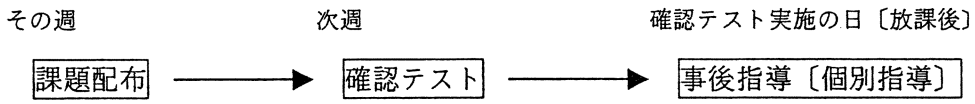
本年度は研究の基盤づくりと位置づけているが，具体的には②に示した全体構想図の“鍛える・わかる・主体性・育む”の４つの観点から研究を推進した。

ア 学年別研究会〔“鍛える”という観点から〕

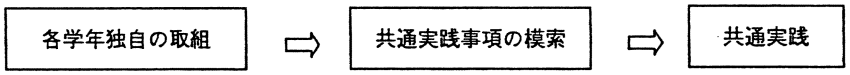
○ 基礎・基本の定着を図る手立て



≪週末課題の流れ≫



○ 学習環境の整備



○ 基本的学習態度の徹底

右に示した本校の“授業約束５(ファイブ)”を基本として，各学年での徹底指導を行う。また，全体的には，学習委員会の活動を中心とした学習態度徹底週間の実施，あるいは毎時間前の日常指導を行い，基本的学習態度の向上を図る。

～ 授業約束５ ～
1 着席１分前黙想
2 進んで発表
3 しっかり返事
4 聴く態度
5 忘れ物をしない

○　読書時間の確保

読書推進が学力向上に結びつくと捉え，毎週２回(水・木)，朝自習の時間(１５分間)を利用して読書の時間を設ける。教師も，その時間帯で生徒とともに読書を行う。

イ　教科別研究会〔“わかる”という観点から〕

○　複数教師によるきめ細かな指導〔少人数指導を中心として〕

数学科と英語科の２教科において，少人数指導を中心としたきめ細かな指導の工夫を図る。前年度においても指導者２人体制で実施してきたが，今年度からも少人数の分け方や学習過程の工夫など，更に学力向上のための研究を推し進める。

○　単独教師によるきめ細かな指導

上記アの数学科・英語科以外の教科には加配がない。そこで，単独の指導者においてどのようなきめ細かな指導が工夫できるかという点について研究を進める。本年度まずは，各教科において２学期までに実施計画を立てる。２学期以降にそれを実践し，そこから各教科間の連絡をとりながら，指導案の表し方や評価のしかたを含めて共通実践できるものを探り次年度につなげる。

ウ　その他〔“育む”という観点から〕

○　学校からの啓発活動〔発信〕

学校通信「飫肥中便り」，３学年通信「いつかこの手に･･･」，２学年通信「たぶの木」，１学年通信「　啄同時」の４通信以外に，校内研究に関する通信を作成し，保護者の理解を得るとともに啓発を図る。

○　学力向上推進委員会

本校の場合，振徳会〔校長・教頭・教務主任・学年主任・PTA 三役・学級長で構成〕が学力向上推進委員会を兼ねており，家庭状況や学習に関するアンケートで実態調査を行い，その結果を活用して家庭の学習環境向上のための啓発活動を進めている。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

1　研究の成果

(1)　学年別研究会〔“鍛える”という観点から〕

①　週末課題の取組

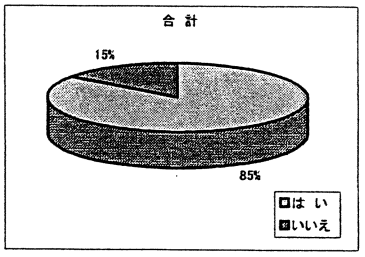
昨年度までの学力向上にまつわる研究活動の中から，週末課題を継続して実施することで，生徒に基礎的・基本的内容を身につけさせる方法・手段としてより確立されてきたと感じる。生徒はもとより，自己評価シートを活用して家庭（保護者）へのアピールもできている。本校の取組として根付いてきたようである。

２月に実施したアンケートについては，教師側においては１００％がこの取組の必要性を感じている。生徒においては，右に示したように全体の８５％の生徒がこの取組の成果をあげている。

設問　；「週末課題で基礎的･基本的学習内容が少しでも身についていると思いますか

	１　年	２　年	３　年	合　計
は　い	81	91	83	85
いいえ	19	9	17	15

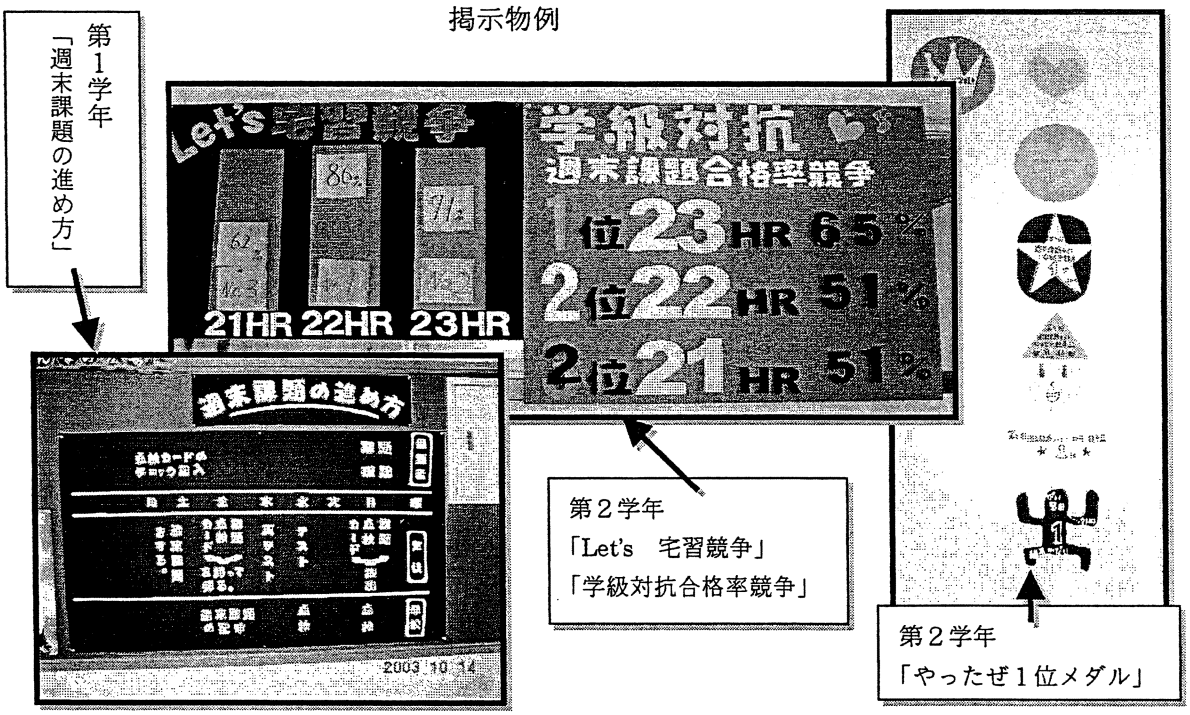
※　値は%表示



②　学習環境整備

週末課題の取組の流れをまとめて，わかりやすく掲示する学年や，学級間の週末課題合格率競争や宅習提出率競争など，週末課題の取組を他にも反映させようとする学年も出てきた。

掲示物例



(2)　教科別研究会〔“わかる”という観点から〕

数学科・英語科以外の教科には加配がない。そこで，単独の指導者においてはどのようなきめ細かな指導が工夫できるかという点について研究を進めた。本年度については，まず各教科において２学期までに実施計画を立てる。２学期以降にそれを実践し，そこから各教科間の連絡をとりながら，指導案の表し方や評価のしかたを含めて共通実践できるものを探り次年度につなげていこうと考えた。実施計画を立てる過程，あるいはその実践において，わかる授業を目指そうとする教師側の意識が高まり，またその実践力も高まってきたと感じる。

各教科のきめ細かな指導計画例

きめ細かな指導の実践に向けて

※夏季休業中に，教科部会をできるだけ設けていただきたいと思います。

教　科	〔　国　語　〕科	備　考
実施学年	第２学年	
実施単元	話す・聞く２「立場を決めて討論しよう」	
実施時期	１０～１１月実施	
実施回数	1	
実施内容	【取り組まれる内容を○で囲んでください。】 ・問題解決的な学習に取り組みますか？　はい　(いいえ) ・どの場面で実践されますか？　導入　(展開)　(まとめ) ・どの指導形態を用いますか？ 少人数指導　(グループ学習)　(一斉指導)　集団討議 その他〔　　〕 ・どの手段を用いますか？　◎　指導を要する生徒〔評価C〕への対応 (課題提示の仕方)　(資料(ワークシートなど))　教材・教具(ヒントカードなど) 板書の仕方　発問の仕方　発表のさせ方　指名・指示の仕方 その他〔　評価表　〕 【具体的流れ】 1「討論ゲーム」の手順・進め方の確認（一斉指導） 2「討論ゲーム」の準備（資料，ワークシート，ヒント） （グループ学習） 3「討論ゲーム」の実際（討論）	
評価の仕方	○　自己評価表 ○　討論している班以外の生徒による評価	

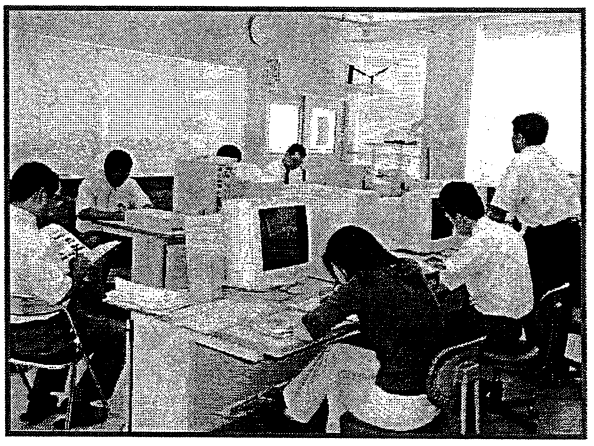
きめ細かな指導の実践に向けて

※夏季休業中に，教科部会をできるだけ設けていただきたいと思います。

教　科	〔　美　術　〕科	備　考
実施学年	第２学年	
実施単元	表現　絵・彫刻　ステンシル版画「素材から広がる世界」	
実施時期	９～１２月　９月第３・４週	
実施回数	～	
実施内容	【取り組まれる内容を○で囲んでください。】 ・問題解決的な学習に取り組みますか？　(はい)　いいえ ・どの場面で実践されますか？　(導入)　展開　まとめ ・どの指導形態を用いますか？ 少人数指導　グループ学習　(一斉指導)　集団討議 その他〔　　〕 ・どの手段を用いますか？　◎　指導を要する生徒〔評価C〕への対応 課題提示の仕方　(資料(ワークシートなど))　(教材・教具(ヒントカードなど)) 板書の仕方　発問の仕方　発表のさせ方　指名・指示の仕方 その他〔　　〕 【具体的流れ】 1　参考作品をいくつか提示し，作品製作のおもしろさや可能性の広がりを認識させ，作品づくりの意欲付けを行う。 2　ワークシートを利用して，生徒一人一人が自分のテーマに沿って作品作りの構想を練る。 ①テーマ設定　②テーマを支えるために登場させる事物の項目を挙げる ③項目挙げをした事物を自分なりの表現でイラスト化する ④完成予想図を仕上げる　⑤配色計画を立てる ○　ワークシート利用のねらいとして，自分のもつ発想をすべて記録として残すことができ，１時間ごとに段階的に課題をクリアしていくので苦手な生徒も徐々に自分のアイディア，構想を形づくり，小さな達成感をもちながら進めていける。 ○　指導を要する生徒は，ワークシートを利用して次の段階に進めるようなヒントやアドバイスを与え，形や色の広がりを助ける。 3　画用紙への下がき　⇒　版づくり　⇒　着色　⇒　完成	
評価の仕方	①　ワークシートの内容に，美術の４つの観点が盛り込まれるように考慮し，そのワークシートの足跡により評価する。 ②　完成作品から形や色の創造性，完成度を見たり，制作の様子をメモしておく。 ③　自己反省カードを毎回記入させており，その内容から美術への関心や意欲面を見る。	

(3)　中高連携の試み

協議会のようす

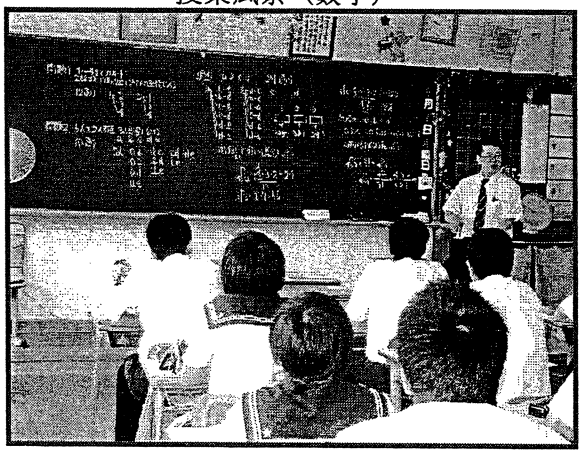


○　管内の日南高等学校においても，同じくフロンティア事業を受けられており，中高連携を軸にした研究を進められている。本校の研究内容と大きく重なるわけではないが，フロンティア〔開拓〕のことばどおり，中高連携の必要性を感じてその領域に踏み込んでみた。具体的には，夏季休業中に両職員で打ち合わせを行い，日南高等学校に進学希望の本校３年生２０名程度に対して，高等学校の先生方による授業（数学・英語）をしていただいた。

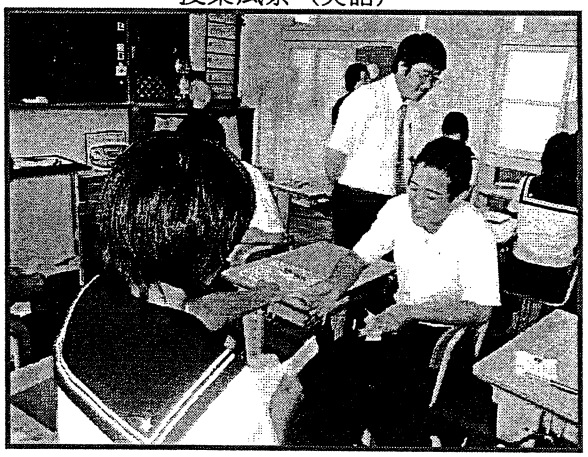
授業における生徒の感想はすこぶる良く，進路への明るい希望を感じとることができた。

授業後は協議会を開き，両校の職員で意見交換を行った。中高連携に関しては，今後も模索していく方向である。

授業風景（数学）



授業風景（英語）



2　今後の課題

(1)　週末課題においては，そのマンネリ化を防ぎ，生徒の目的意識が低下しないような刺激を与えていく必要がある。

(2)　週末課題について，調査の結果，教師側の問題作成時間が１課題あたり平均３０分～１時間程度要し，事後指導については３０分～１時間程度要していることがわかった。特別に設定した時間で行っていないために，教師側も必要性は感じているものの，時間確保が困難な状況が続いている。来年度の大きな課題であり，打開策はまだあがっていない。

(3)　各教科とも，わかる授業を目指して，きめ細かな指導のアイディアを出し合いその実践を図っているが，その取組と評価との結びつきについてはまだまだ研究の余地がある。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

1　各種テストの分析

各学年においては，各種テストおよび定期テストについて分析を行い，その時点での努力事項を挙げて学力向上に努めている。特に，年度当初の NRT テストについては，分析結果をグラフ化し，これまでの学年データと照らし合わせながら，週末課題の実施教科を決定する資料などに活用している。

2　生徒の実態調査

研究に関わる取組を軸として，家庭学習時間やその取組についての生徒の捉え方などを調査している。

3　学力向上推進委員会“振徳会”の活動

年度当初，生徒の家庭学習の状況把握，あるいは家庭での有効な生徒への支援等を探るために，振徳会独自でアンケートを作成し，その分析結果を提示・発信しながら学力向上につなげている。

V　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1　平成 15 年 10 月 17 日　中間発表

本校において，学力向上フロンティアスクールとしての取組を発信

2　平成 15 年 11 月 26 日　学校訪問にて本校の取組を説明

3　平成 16 年　1 月 13 日　管内の学力向上協議会にて本校の取組を発信

4　定期的に，学校通信「飫肥中だより」にて研究内容や取組状況を発信

◇　諸調査　　該当項目は■

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】
□　３学級以下　□　４～６学級
□　７～９学級　■　１０～１２学級
□　１３～１５学級　□　１６学級以上

【指導体制】
■　少人数指導　□　T．Tによる指導
■　その他

【研究教科】
□　国語　□　社会　□　数学　□　理科
□　外国語　□　音楽　□　美術　□　技術・家庭
□　保健体育　■　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■　有　□　無